2019年度

環境活動レポート

2019年10月~2020年9月

発行 2020年 12月26日

改訂 2021年 4月21日

E P K

Ecolgy & people to kindness

有限会社 イーペック牛久

茨城県牛久市正直町 1375 番地

E-mail: epk-1215@bz01.plala.or.jp

環境方針

〈基本理念〉

私たち有限会社イーペック牛久は、建設発生木材等の再資源化の担い手として、資源循環型社会の形成に貢献します。併せて、事業活動を通じて投入、排出する環境負荷の一層の低減を図ります。

〈行動指針〉

当社は、基本理念の実現に向け廃木材を破砕し木質チップ化することにより、『建設発生木材等の再資源化事業の継続的発展』と『事業活動のなかで環境保全に配慮して行動すること』を経営の最重要課題としてとらえ、次の行動指針を定めます。

- 1. 建設発生木材等の再資源化製品である木材チップの市場への安定供給に努め、資源循環型社会の形成に貢献します。 又、新たな環境政策課題である新エネルギーへの転換に貢献する為、バイオマス燃料の安定供給にチャレンジします。 これの実現のための、具体的課題として次の事に取組んでまいります。
 - ① 生産設備の突発故障による製造停止の防止
 - ② 総物質投入量の管理
- 2. 木材チップの製造の事業活動において、環境負荷を低減し、環境汚染を未然に防止する為、次の事に取り組んでまいります。
 - ①電力使用量の削減
 - ②化石燃料(主として軽油)使用量の削減 上記①,②の活動を通して二酸化炭素排出量の削減を図ります。
 - ③産業廃棄物排出ゼロベースの維持
 - 4水資源投入量の管理
 - 5環境物品等購入の推進
- 3. エコアクション21の取組により、環境保全実績の継続的な改善を図ります。
- 4. 事業活動に於いて適用される『廃棄物処理法』をはじめ、環境法規制等を遵守します。
- 5. 環境保全関連の行政機関・団体などの環境保全施策に協力すると共に、地域社会における環境保全活動に対し積極的に参加し、社会貢献活動を推進します。
- 6. 環境教育、訓練の実施により、全ての構成員に環境保全状況の知識・認識の向上を図ります。
- 7. 環境方針の公開等必要な情報の開示に努めます。

制定 2005年 6月1日 改訂 2010年12月1日 改訂 2020年 4月1日

有限会社イーペック牛久

新妻 章弘

1、組織の概要

(1) 事業所名及び代表者

有限会社イーペック牛久 代表取締役 新妻 章弘

(2) 所在地

茨城県牛久市正直町字守山 1375 番地

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	工場長	小林 弘卓	T E L 029-875-1215
			F A X 029-875-1210
部門長 (事務所)	総務部	長沼 美智子	同上
部門長 (製造)	製造部	戸村 和幸	同上
部門長 (保全)	保全部	今村 明秀	同上

(4) 事業内容

木材チップ製造、産業廃棄物処理業(木くず破砕中間処理)

一般廃棄物処理業(木くず破砕処理)

産業廃棄物収集運搬業(収集車4台)

(5) 事業規模

(0) 1. /1/// 1//			
活動規模	2017 年度	2018 年度	2019 年度
原材料投入量(中間処理量)	51,254 t	51,245 t	55,197 t
売上高	391 百万円	374 百万円	470 百万円
従業員数	17 人	17 人	18 人
工場床面積	1,550 m²	1,550 m²	$1,550 \text{ m}^2$
敷地面積	19,000 m ²	19,000 m ²	19,000 m²
産業廃棄物収集運搬業	428 m²	428 m²	428 m²
積替え保管施設	(保管上限 64.8 m³)	(保管上限 64.8 m³)	(保管上限 64.8 m³)
積替え保管施設受け入れ量	1,409 t	858 t	1,130 t
搬入台数	647 台	227 台	264 台
搬出台数	225 台	104 台	140 台

注:原材料投入量(中間処理量)及び売上高は、各会計年度(10月~9月)の実績を、従業員数及び工場床面積は、各期末日現在の状況を示す

2、対象の範囲

(1) 事業活動:事業内容に同じ

(2) 対象事業所:本社工場 (茨城県牛久市正直町字守山 1375 番地)

積替之保管施設(埼玉県八潮市大字西袋川西 767 番地 5)

(3) レポートの対象期間及び発効日:2019年10月1日~2020年9月30日

2020年 12月 26日発行

《産業廃棄物処理業に係る情報公開》

(1) 組織の概要

ア、設立年月日: 平成14年1月25日

イ、資本金 : 800 万円ウ、売上高 : 470 百万円

工、組織図 :別図1

(2) 許可の内容

産業廃棄物処分業 茨城県

許可番号 : 0821084550

許可年月日 : 平成 27 年 4 月 22 日 有効年月日 : 平成 34 年 4 月 21 日(令和 4 年 4 月 21 日)

事業の範囲 : 木くず、金属くず 中間処分(破砕)

産業廃棄物収集運搬業 茨城県

許可番号 : 00801084550

許可年月日 : 平成 27 年 4 月 22 日 有効年月日 : 平成 34 年 4 月 21 日 (令和 4 年 4 月 21 日)

事業の範囲: :積替え保管を除く。廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く。)

紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、(自動車等破砕物を除く。) ガラスくず・コンク リートくず及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く。) がれき

類(石綿含有産業廃棄物を除く。)

産業廃棄物収集運搬業 千葉県

許可番号 : 01200084550

許可年月日 : 平成 29 年 7 月 3 日 有効年月日 : 平成 36 年 7 月 2 日 (令和 6 年 7 月 2 日)

許可の範囲: 積替え保管を除く。廃プラスチック類(自動車等破砕物を除く)、紙くず、木くず、

繊維くず、金属くず(自動車等破砕物を除く)、ガラスくず、コンクリートくず及び陶 磁器くず(自動車等破砕物を除く)、がれき類、(これらのうち特別管理産業廃棄物であ

るものを除く。)

※「石綿含有産業廃棄物を含む」の記載のない種類については、石綿含有産業廃棄物を

収集・運搬できない。

産業廃棄物収集運搬業 埼玉県

許可番号 : 01110084550

許可の範囲: 積替え保管を含む。廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラス

くず・コンクリートくず(がれき類を除く。)及び陶磁器くず、がれき、以上7種

石綿含有産業廃棄物は除く。

積替え保管できる産業廃棄物の種類

廃プラスチック類(廃畳に限る。)、紙くず(廃畳に限る。)、木くず、繊維くず(廃畳に

限る。) 以上4種類

《産業廃棄物処理業に係る情報公開》

産業廃棄物収集運搬業 東京都

許可番号 : 13-00-084550

許可年月日 : 平成 29 年 6 月 18 日 有効年月日 : 平成 36 年 6 月 17 日 (令和 6 年 6 月 17 日)

許可の範囲:積替え保管を除く。廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラス・

コンクリート・陶磁器くず、がれき類、(以上7種類)

産業廃棄物収集運搬業 神奈川県

許可番号 : 01400084550

許可年月日 : 平成 30 年 9 月 9 日 有効年月日 : 平成 37 年 9 月 8 日 (令和 7 年 9 月 8 日)

許可の範囲: 積替え・保管を除く。廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、

ガラスくず、・コンクリートくず・陶磁器くず、がれき類

※ 取扱う産業廃棄物は、特別管理産業廃棄物であるものを除く。

産業廃棄物収集運搬業 栃木県

許可番号 : 00900084550

許可年月日 : 令和2年3月31日 有効年月日 : 令和9年3月30日

許可の範囲: 積替えを除く。廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、

ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

※産業廃棄物の種類は、特別管理産業廃棄物であるものを除く。

産業廃棄物収集運搬業 群馬県

許可番号 : 01000084550

許可年月日 : 令和 2 年 11 月 12 日 有効年月日 : 令和 9 年 11 月 11 日

許可の範囲: : 積替え保管を除く。廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、

ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

(3) 施設の状況

施設の種類	処理能力	処理方式
破砕施設	120 t/日 (8時間)	高速回転による破砕
破砕施設	80 t/日 (8時間)	低速回転による破砕、その後高速回転による二次破砕

施設の種類	面積	保管上限	
産業廃棄物収集運搬業	$428.33~\mathrm{m}^2$	64.8 m³	
積替え保管施設	42 0. 33 III	04.8 III	

処理工程図 : 別図 2

(4) 保有車両(産業廃棄物収集運搬車両)

脱着装置付コンテナ専用車最大積載量 11,600 k g1 台脱着装置付コンテナ専用車最大積載量 11,700 k g1 台脱着装置付コンテナ専用車最大積載量 3,750 k g1 台キャブオーバ最大積載量 14,000 k g1 台

(5) 収集運搬実績・処理実績・処理料金

収集運搬実績 : $2019 \mp 10 月 \sim 2020 \mp 9 月$ 6,601 t 処理実績 : $2019 \mp 10 月 \sim 2020 \mp 9 月$ 51,245 t

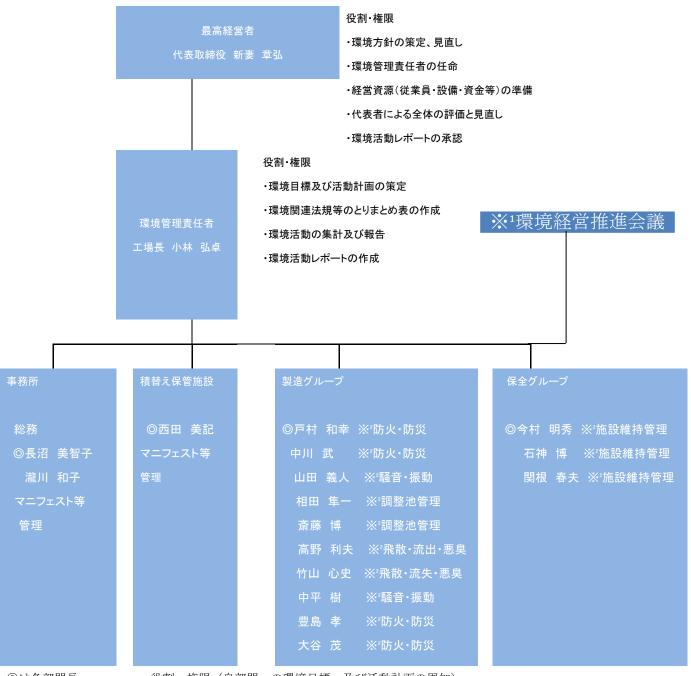
処理料金 : 7,300 円/t 程度

(6) 事業計画の概要

建設発生木材や生木等を収集、破砕(中間処理)のうえ木材チップを製造し、バイオマスボイラーの燃料、建材及び製紙の原料等としてリサイクル需要先へ供給することで、資源循環型社会の形成に貢献することを経営の最重要課題といたしております。

ea21 推進組織図

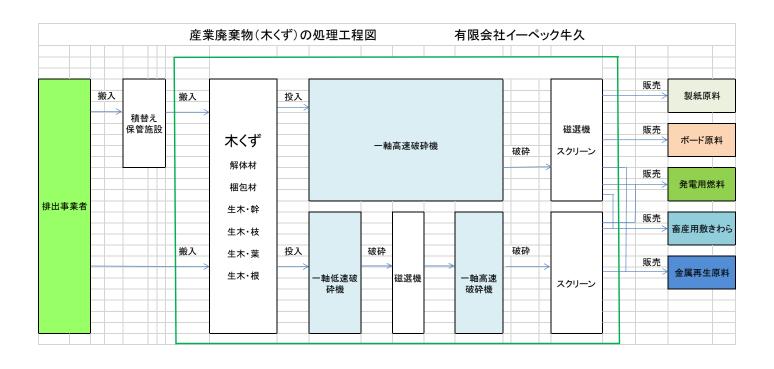
改訂 2020 年 7 月 1 日 総従業員数 18 人



◎は各部門長・・・・・役割・権限(自部門への環境目標、及び活動計画の周知)

各部門従業員・・・役割・権限(活動計画の遂行、問題点の是正処置)

- ※1 環境経営推進会議は必要に応じて工場長が招集し、構成メンバーは、最高経営者、環境管理責任者 及び各部門長とする。
- ※ は牛久市との公害防止協定に定める各遵守項目の実施責任者である。



令和1年10月~令和2年9月			—;	連の処理の	· 〕	有限会社イーペック牛久		
<u> </u>					売却	A社(製紙用原料として利用) 64t(0.1%)		
受 け 入 れ	木くず 55,197t(100%)	6) →	破砕処理 55,197t (100%)		売却	B社(製紙用原料として利用) 321t(0.6%)		
れ					売却	C社ボード用原料 13,357t(24.2%)		
					売却	D社発電用燃料 3,179t(5.7%)		
受入量 55,197 t (100%)	保管量500)t	持出 55,197 t	出量 (100%)	売却	E社発電用燃料チップ販売商社 31,767t(57.6%)		
					売却	F社畜産敷きわら用 5,930t(10.8%)		
					売却	G社金属再生用(木くずに付着し、搬入された金属 579t(1.0%)		

3、環境への取組

(1) 環境への貢献と主な環境負荷の実績

当社製品は、製紙・建材の再生原料及びバイオマスボイラー燃料等として全量リサイクルされており、製品供給先において、次表の二酸化炭素削減効果がある。

項目	単位	2016 年度	2017 年度	2018年度	2019 年度
二酸化炭素削減効果	t-CO ₂	34,808	31,777	31,771	34,222

- (注) 木材チップ 1 t あたり CO_2 削減効果= $620 k g CO_2$
- 一方、当社の事業活動において生じる主な環境負荷は、次表のとおりである。

なお、2016 年度二酸化炭素実排出係数は、2015 年度大和ハウス工業(株)の調整後排出係数 0.000549 t $- \text{CO}_2/\text{kW}$ h を使用した。

項目		2017 年度	2018年度	2019 年度
温室効果ガス排出量	二酸化炭素 k g - C O ₂	803,608	844,117	979,755
注()内は、発生	(購入電力) kg-CO2	(272,358)	(267,955)	(309,727)
源別排出量	(軽油他) kg-CO2	(522,997)	(570,280)	(670,028)
	電力軽油割合	99%	99%	99%
受託した産業廃棄物	収集運搬量	4,660 t	6,601 t	6,817
処理量	中間処分量	49,916 t	49,734 t	53,181
	内、再資源化量	49,916 t	49,734 t	53,181
	中間処分後の産廃処分量	49,916 t	49,734 t	53,181
	内、再資源化量	49,916 t	49,734 t	53,181
受託した一般廃棄物	中間処分量	1,338 t	1,511 t	2,016 t
処理量	内、再資源化量	1,338 t	1,511 t	2,016 t
廃棄物総排出量	一般廃棄物	1.84 t	2.38 t	1.36 t
	産業廃棄物	0 t	0 t	0 t
総排水量	公共用水域	$2{,}560~{ m m}^{ m s}$	$2{,}413~\textrm{m}^{\textrm{\tiny 3}}$	$2,420~\mathrm{m}^3$
	下水道	0 m³	0 m^3	0 m³
水使用量	上水	0 m ³	0 m ³	0 m ³
	地下水	$2,560 \text{ m}^{^3}$	$2,413~\mathrm{m}^\mathrm{3}$	$2,420~\mathrm{m}^3$
化学物質使用量		0	0	0

(2) 環境への取組の概要

自然エネルギーの有効活用及び温室効果ガス排出抑制対策として平成25年10月に事務所に売電用太陽光発電パネルを設置した、その結果、2014年度7,596kWh、2015年度9,434kWh、2016年度6,765kWh、2017年度6,348kWh、2018年度6,004kWh、2019年度6,384kWhの電力を発電することができた。

以上の環境への貢献と主な環境への負荷状況及び環境への取り組みを踏まえて環境方針に沿って、次の環境目標及び次項の環境活動計画を設定し取り組んだ。

- (1) 温室効果ガスの削減に寄与するため、製品の安定供給を維持するための環境目標
 - ①生産設備の突発故障の防止
 - ②原材料投入量の管理(再資源化した製品の種類・数量・割合)

- (2) 製品生産に投入するエネルギー及び水資源の削減等に関する環境目標
 - ①電力使用量の削減 ②軽油使用量の削減 ③水資源投入量の管理
 - ④産業廃棄物排出ゼロベースの維持 ⑤環境物品等購入の推進
- 4、環境目標とその実績

	(注1)		基準年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
NO	環境目標	´ 単位	(2016年度)	目標上段	目標上段	目標上段
			実績下段	実績下段	実績下段	実績下段
	(a) / 1 + = 1. + + + + + + + + + + + + + + + + + +	/4-		3	3	2
1	(1)生産設備突発故障の防止	件	3	1	2	1
1	(9)圣陆,孙自伊会の宝栋	件		45	45	45
	(2)予防・改良保全の実施	14	38	34	34	43
				58,000	58,500	投入量 55,197 t
			56,142	51,254	51,245	バイオマス燃料用 34,946 t 63.3%
	原材料投入量の増加					建材ボード用 13,357 t 24.4%
2	※2019年度からは原材料を再資源化	t				製紙用 321 t 0.7%
	した種類、数量、割合					堆肥用 5,930 t 10.8%
						金属再生用 579 t 1.0%
				(△1%)	(△1.5%)	$(\triangle 2\%)$
3	電力使用量の削減(原単位あたり)	k Wh/t		9.82	9.77	9.72
			9.92	9.67	9.52	10.22
				(△1%)	(△1.5%)	$(\triangle 2\%)$
4	軽油使用量の削減(原単位あたり)	L/t		3.78	3.76	3.74
			3.82	3.88	4.24	4.59
	二酸化炭素排出量の削減(原単位あ			(△1%)	(△1.5%)	(riangle 2%)
5	たり)	k g-CO ₂ /t		15.43	15.36	15.28
	129)		15.59	15.67	16.47	17.75
	水資源投入量の管理			(△1%)	(△1.5%)	(riangle 2%)
6	小貝伽奴八里の日柱	m^3		2,601	2,588	2,574
			2,627	2,560	2,413	2,420
7	産業廃棄物排出ゼロの維持(排油を	t		0	0	0
	除く)	ι	0	0	0	0
	環境物品等購入の推進(現状把握	%	100	100	100	100
8	/2011 年度より数値化)	%	100	100	100	100
	7월011 十汉より纵旧旧/	(円)	(15,332)	(33,439)	(23,817)	(51,011)

- (注1) 環境目標は、2016年度実績値を基準とする2017年度~2019年度までの3ヶ年の中長期目標です。
- (注2)3段表示の最上段の()内の数字は、基準年度からの削減目標を示します。
- (注3) 3 段表示の最下段の()内の数字は、実績値(円表示)です。
- (注4) 弊社では化学物質を使用しておりませんので、環境目標に化学物質削減を掲げておりません。

5、主要な環境活動計画の内容と次年度の取り組み

NO	環境目標及び環境活動計画	単位	目標	実績 達成率	評価及び次年度の取り組み
1	生産設備突発事故の防止/予防・改良保全の 実施	故障件数	2件以下	1件 200%	○日常点検による異常の早期発見 で故障停止件数1件に抑えること ができた。
	※日常点検と異常時即予防保全の実施	予防保全実	45 件以上	43 件	次年度も突発故障を起こさない為 に日常点検と予防保全に努める。
	※保全作業予定の立案	施件数		95%	
	※予防保全の実施記録				
2	原材料投入量の管理		再資源化後	55, 197	受入れた原材料すべてを再資源化 することができた。
		t	の種類、数量		次年度も全量再資源化を目指し 管理をする。
			割合の管理		
3	電力使用量の削減	kWh/t	9. 72	10. 22	×2 次破砕機を導入した影響もあり使用量が増加した。
	※不使用設備電源OFFの定着			95%	次年度は新たに設定した目標を達成出来るよう日常活動に努める。
	※破砕機の連続運転による始動時に掛かる				
	高負荷の軽減				
	※屋外夜間照明の節約				
4	軽油使用量の削減	L/t	3. 74	4. 59	×日常活動を実践したが目標には 届かなかった。
	※重機等アイドリングストップの励行			81%	次年度は軽油の用途ごとに新たな 算出基準を設け軽油使用量の削減
	※燃費の良い重機をメインで使用する				に努める。
	※重機ごとの燃料使用量の記録				
	※効率的なルートでの運搬				
5	二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO ₂ /t	15. 28	17. 75	×電力の達成率 95%、軽油の達成 率 81%、各々の寄与度が、電力が
	※上記の電力・軽油等の取組による			86%	31%、軽油が 68%であった。次年 度はできる限り削減できるよう取 り組む。
6	水資源の投入管理	m^3	2, 574	2, 420	○日常の中で節水が定着し目標を 達成できた。
	※不使用時の節水の徹底			106%	次年度も使用量削減に努める。
	※揚げ水量の記録				
7	産業廃棄物排出ゼロベースの維持	t	0	0	○搬入業者様の協力もあり目標を 達成できた
	※材料の荷卸し時木くず以外の異物の			達成	次年度も継続出来るよう努める。。
	持ち帰りの徹底				
8	環境物品等購入の推進	%	100	100	○ネット通販で環境物品を選択し 購入出来た。
				100%	次年度は環境目標の項目からは外 すが活動は継続する。

評価欄: 符号◎は目標大幅達成、○は目標達成、△は改善されているが更に徹底を要する、 ×は目標未達成を表す。

- 6環境活動計画の取り組み結果、次年度の取り組み内容
- (1) 環境活動計画の取り組み結果とその評価及び次年度の取り組み

2019 年度の環境目標及び環境活動計画に基づく取り組み結果と、その評価及び次年度の取り組みは、上表評価欄のとおりである。

- 7、環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無
 - (1) 遵守状況の確認及び評価の結果

関連する法規制及び遵守状況。

適用される法規制	適用される事項 (施設・物質・事業活動)	遵守状況
騒音規制法	破砕機	0
浄化槽法	浄化槽	0
廃棄物処理法	産業廃棄物処理施設	0
消防法	指定可燃物の保管・消防設備の維持管理	0

(2) 違反、訴訟等の有無

環境関連法規の違反、訴訟等はありません。なお、関係当局などからの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

8、代表者による全体評価と見直しの結果

1) 環境目標の達成状況について評価した。

生産設備の突発故障による製造停止ロスの防止については、ここ数年継続して目標を達成できており日常活動が根付いていることが伺える。

原材料の投入量の管理については、サーマルリサイクル原料をメインに全量再資源化することが出来た。新型コロナウイルスの影響もあり材料の発生源である解体工事現場の着工見送りや、物流で使用される木製パレットの発生が減少したなど昨年とは状況が一変した。

今後、市場で木質チップが足りない状況が予想されるが、製品を安定供給する責任を果たすためにも、事故や 生産設備の長期停止による受け入れ不可という事態を起こさぬよう、引き続き安全を第一に業務に従事し、投 入した原材料を再資源化して、種類・数量及び割合の記録をする。

2) 製品生産に投入するエネルギー及び水資源の削減等に関する環境目標

電力使用量について四半期ごとに見ると目標達成できた時期もあるが1年を通すと目標に届かなかったことは 残念である。2018 年度に導入した二次破砕機を通年使用した結果を基に新しい目標を設定する。具体的な数 値は今年度実績マイナス3%を中期目標とする。

軽油使用量について重機及び車両のエコ運転やアイドリングストップなど日常活動を実践したが残念ながら 目標を達成することが出来なかった。中期目標年度を終え、今後の目標を設定するにあたり次年度以降はこれ までの算出基準を見直し、「重機は時間当たりの使用量」、「車両は走行距離に対する使用量」「構内車両及び掃 除機、溶接機等は工場稼働日数に対する使用量」として新たに目標を設定する。具体的な数値は今年度集計し た数値マイナス 3%を中期目標に掲げる。

水資源投入量については今年度も節水に努め目標を達成できたことは評価する。次年度も日常活動を継続し節 水につとめ、今年度実績マイナス3%を中期目標に掲げる。

産業廃棄物排出ゼロの維持については受け入れ時の異物の返却と搬入業者様の協力もあり目標を達成することが出来た。今後も同様の活動を続け産業廃棄物排出ゼロを維持していく。

環境物品の購入の推進については今年度も 100% (8 品目、51,011 円) 購入することが出来た。

今後は、環境目標の項目からは外すが、引き続き環境物品を積極的に 取り入れる。

9、新中期長期環境経営目標

NO	環境方針	単位	2019 年度実績 (基準年度)	2020 年度目標	2021 年度目標	2022 年度目標(中期目標)
1	生産設備の停止ロス	件	1 件	1 件以内維持	1件以内維持	0件
2	予防保全の実施	件	43 件	予防保全内容及び件数の記 録	予防保全内容及び件数の記 録	予防保全内容及び 件数の記録
3	原材料投入量の管理	t	_	投入量の記録 再資源化した種類数量、割合の 記録	投入量の記録 再資源化した種類数量、割合の 記録	投入量の記録 再資源化した種類 数量、割合の記録
4	電力使用量の削減	k Wh/ t	10.22 k Wh/ t	2019 年度実績 △2%	2019 年度実績 △2.5%	2019 年度実績 △3%
5	軽油使用量の削減(重 機)	kℓ/ h (稼働時間)	使用量 175,0920 稼働時間 14,807時間 <mark>11,80/ h</mark>	2019 年度実績 △2%	2019 年度実績 △2.5%	2019 年度実績 △3%
6	軽油使用量の削減(収 集運搬車両)	kℓ/k m (走行距離)	使用量 56,833@ 走行距離 139,766 km <mark>2.45 km/@</mark>	2019 年度実績 △2%	2019 年度実績 △2.5%	2019 年度実績 △3%
7	軽油使用量の削減(構 内用車両、掃除機、溶 接機等)	kℓ/ h (稼働日数)	使用量 21,4470 稼働日数 302 日 <mark>710/日</mark>	2019 年度実績 △2%	2019 年度実績 △2.5%	2019 年度実績 △3%
8	水資源の投入管理	m³	2,420 m³	2019 年度実績 △2%	2019 年度実績 △2.5%	2019 年度実績 △3%
9	産業廃棄物排出ゼロ	t	0 t	0 t	0 t	0 t

有限会社イーペック牛久 代表取締役 新妻 章弘